

速度計ケーブルとモデルの相性

スピードメーターの針振れはアナログ計器のウイークポイントです。特にダンパー機能のない旧型車両用速度計では顕著になります。速度計、回転計に使われる回転ケーブルは遠隔地に回転力を伝えますが曲り箇所があると内部抵抗が増大し円滑な伝動が出来なくなります。ギアボックスで規則的な回転が発生してもメーター側にはムラのある回転力になるため指針が跳ね振れが出ます。リプロ品や社外品の方が改善されている場合もあります。

実は針振れを発生させる落とし穴があります。

R26-69Sの速度計が組み込まれているヘッドライトハウジングは速度計ケーブルを通す穴が直下になく、いくぶんズレて設定されています。そのため不適切なケーブル使用で屈曲部が出来て振れがでたり、短寿命になる恐れがあります。

ケーブル給油、取り回し改善、ケーブルグロメット除去（曲りが緩和される）で改善しない場合はケーブル由来で振れが出ている可能性があります。



旧タイプには曲りに無理のない左側がベスト



アースの白線が邪魔ですが無理な角度が付いている